

6.9 蘚苔類



(1) 県内の蘚苔類の概要

富山県内の蘚苔類の生育範囲は、海岸部から標高3,000m級の山岳域までと、標高差が大きいことが特徴である。標高によって蘚苔類相は変化し、県東部に連なる立山連峰、後立山連峰では、高山帯や亜高山帯を生育エリアとする北方系や氷河期遺存と考えられ稀にしか見つからない種、国内でのほぼ南限となる種が生育する。多雪地域の日本海側に分布する種は、主に亜高山帯から山地帯に生育している。暖地性の種が丘陵帯にいくらか生育し、日本海側の分布の北限や北限に近い生育地がある。丘陵帯では、河川、水路、耕作地において人為的影響が大変大きく、小河川沿いや湧き水が流れる水路、田圃に生育する蘚苔類の中には激減している種がある。

文献記録から作成された分布種の一覧（チェックリスト、文献No.31, No.37）では、蘚類は424種、苔類は142種、ツノゴケ類は5種が列挙されている。分布種の一覧や以降の報告によって局所的な蘚苔類相は分かるが、富山県内における全容の解明には至っていない。特に、富山県では高山帯や亜高山帯が広範囲にあり、黒部峡谷や立山連峰、後立山連峰からは、1950年代、1960年代頃に、新種、日本新産種、世界的に不連続に分布する種が報告されている。しかし、近年は立山アルペンルート沿いの蘚苔類の報告はあるが、山岳域での調査は少なく、一層の調査が必要である。

(2) 選定評価の方法

前回の「富山県の絶滅のおそれのある野生生物一レッドデータブックとやま2012一」掲載種、「環境省レッドリスト2020」掲載種は基本的に選定種とした。掲載種以外については、チェックリストや最近の文献記録、サイエンスミュージアムネット（文献No.27）に掲載されている標本情報、富山市科学博物館の収蔵標本、2024年9月までに行われた研究を基に、県内および全国の生育状況を検討して選定を行った。

前回掲載種のうち、2012年以降の調査データのある種は生育地や生育量の増減を基にカテゴリー判定を行い、文献記録のみで生育地調査が行われていない種は情報不足のままとした。今回、新たに掲載する種については、県内および全国的な生育状況を検討し、カテゴリー判定を行った。

(3) 選定種の概要

峡谷や山岳域の限られた場所に生育し、全国的にも生育地が少ない高山性のサトミヨツデゴケやナンジャモンジャゴケ、オリンピックゴケ、キレハコマチゴケ、分布境界域に生育している暖地性のコキジノオゴケやイトゴケ、県内では平地の湧水中に生育するクロカワゴケやカワゴケなどを選定した。

今回の選定種は、前回選定種から2種が外れ、新たに7種が加わった38種であり、前回よりも5種増えた。選定を外した種は、生育地が多いことから絶滅が危ぶまれないオオミズゴケと、複数の種が含まれており種毎の調査が要されるウキゴケ（広義）である。新たに加えた7種は、県内に生育することが判明したが生育地が極めて限定される5種、環境変化で生育が減った2種である。

生育地や生育量が減ったことで上位カテゴリーに移した種は4種あり、そのうち2種は絶滅と判定

表1. 2012年と2025年における選定種数

カテゴリー	2012年	2025年
絶滅	0	2
絶滅危惧Ⅰ類	5	14
絶滅危惧Ⅱ類	7	11
準絶滅危惧	6	3
情報不足	15	8
総数	33	38

した。

前回カテゴリーが情報不足の15種については、生育地調査が行われた9種はカテゴリーを変更し、8種はI類、1種はII類とした。生育地調査が行われていない6種は情報不足に据え置いた。

(4) 絶滅の危機に追い込んでいる要因（減少要因）

峡谷や山岳域においては、洪水や山崩れなどの自然災害・自然遷移・歩道の改修などによる生育地の消失、温暖化によってこれまでより早い時期の消雪で生じる乾燥化が主な要因と考えられる。平野においては、田畠の大型圃場への整備や水管理の変化・耕作放棄・道路改修・河川改修・湧水量減少などの人為的影響による生育地の消失や環境変化が主な要因と考えられる。

(5) 種のリストの整理基準

和名と学名は、「A Revised New Catalog of the Mosses of Japan」(Suzuki, 2016) と「日本産タイ類・ツノゴケ類チェックリスト」(片桐・古木, 2018) に基本的に従い、種の並びは蘚類、苔類、ツノゴケ類に分けて、学名のアルファベット順とした。

【文献】

- 片桐・古木, 2018. 日本産タイ類・ツノゴケ類チェックリスト. *Hattoria* 9 : 53–102.
Suzuki, 2016. A Revised New Catalog of the Mosses of Japan. *Hattoria* 7 : 9–223.

(6) 謝辞・協力者

本報告書を作成するにあたり、生育地の情報提供、学名の教示をいただきました。お礼を申し上げます。(五十音順、敬称略)

生育地の情報提供：金子芳治、木内静子、杉田久志、田村正次、俵 京子、吉岡 翼
学名の教示：山口富美夫

(文責：坂井奈緒子)

コキジノオゴケ (クジャクゴケ科) *Cyathophorum hookerianum* (Griff.) Mitt.

富山県 2025 カテゴリー：絶滅+野生絶滅
環境省 2020 カテゴリー：準絶滅危惧

選定理由

低山の渓流沿い 1ヶ所での生育報告が 2007 年にあるが、発見後に渓流沿いの歩道が崩れており環境変化があり、数度の調査では生育が確認できず、絶滅したと考えられる。富山県内の生育地は日本海側の分布北限であったと思われる。

国内の分布状況

本州（福島県以西）、四国、九州、琉球。

県内の分布状況

上市町中部（絶滅）。

生態・生息環境

日本では福島県以西、世界的には亜熱帯、熱帯地域の樹幹上に生育する。

生存への脅威（減少の要因）

洪水、樹木伐採、乾燥化。

保全対策

生育地の保護（再発見の場合）。

（文責：坂井 奈緒子）

クロカワゴケ (カワゴケ科) *Fontinalis antipyretica* Hedw.

富山県 2025 カテゴリー：絶滅+野生絶滅
環境省 2020 カテゴリー：絶滅危惧 II 類

選定理由

県内の生育地は平地の湧水が流れる水路に限られ、コンクリート製水路への改修によって生育地は減り続け、残っていた 2ヶ所も水路改修や水質汚濁があり、本種は消失した。他所の湧水の流れる水路での調査でも、本種は見つからず、絶滅とした。

国内の分布状況

北海道、本州。

県内の分布状況

黒部市北部（絶滅）、入善町北部（絶滅）。

生態・生息環境

夏でも冷たい水中に生育する。県内では扇状地扇端部の湧水の多い流れに生育していた。

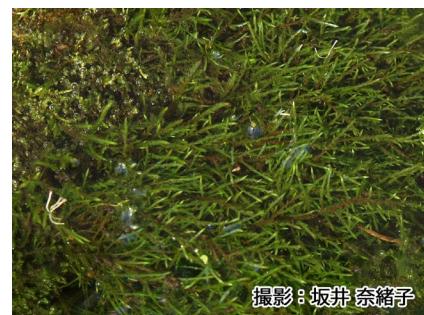
生存への脅威（減少の要因）

水路改修、水質汚濁、外来種の繁茂。

保全対策

生育地の保護、水草除去の管理（再発見の場合）。

（文責：坂井 奈緒子）



ナンジャモンジャゴケ (ナンジャモンジャゴケ科) *Takakia lepidozoides* S.Hatt. & Inoue

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 I 類
環境省 2020 カテゴリー：絶滅危惧 I 類

選定理由

全国的に生育地は限られ、県内では高山帯の岩場での生育報告があり、生育量は多くない。温暖化で雪渓の消雪が早まることによる乾燥化が進むと絶滅が心配される。

国内の分布状況

北海道、本州。

県内の分布状況

立山連峰。

生態・生息環境

高山域の雪渓近くの岩陰等、冷涼で霧などにより露に濡れやすい環境に生える。

生存への脅威（減少の要因）

地球温暖化、乾燥化、産地局限。

保全対策

生育地の保護。

（文責：坂井 奈緒子）



オリンピックゴケ (キヌシップゴケ科) *Brachydontium olympicum* (E.Britton) T.T.McIntosh & J.R.Spence

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 I 類
環境省 2020 カテゴリー：絶滅危惧 I 類

選定理由

国内の生育地は称名川源流付近の 1ヶ所に限られ、洪水によって流されやすい場所である。

国内の分布状況

本州（富山県のみ）。

県内の分布状況

立山（本稿の蘚苔類における“立山”は、雄山、大汝山、富士ノ折立の三山を合わせたものである）。

生態・生息環境

沢近くの半日陰の転石上に生育する。微小な種。

生存への脅威（減少の要因）

河川改修、洪水、地球温暖化、乾燥化、産地局限。

保全対策

生育地の保護。



撮影：坂井 奈緒子



2012年以降の記録をもとに作成

チャボナガダイゴケ (シッポゴケ科) *Trematodon asanoi* Tuzibe

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 I 類
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

全国的に生育地は少なく、県内の生育地は立山に 4ヶ所あったが、1ヶ所は確認できなくなった。歩道沿いに生育しており、遷移の進行や歩道整備によって生育場所が消失しやすい。

国内の分布状況

北海道、本州。

県内の分布状況

立山。

生態・生息環境

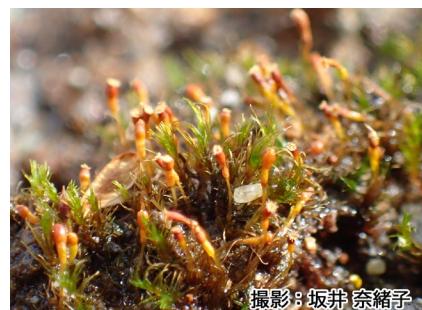
高山域の歩道沿いの半日陰の地上に生える。

生存への脅威（減少の要因）

開発、歩道整備、自然遷移。

保全対策

生育地の保護。歩道整備時は生育環境の維持に配慮する。



撮影：坂井 奈緒子



2012年以降の記録をもとに作成

ツブツブヘチマゴケ (カサゴケ科) *Pohlia drummondii* (Müll.Hal.) A.L.Andrews

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 I 類
環境省 2020 カテゴリー：絶滅危惧 I 類

選定理由

県内の生育地は立山に 4 ヶ所あり、いずれも歩道や歩道脇である。最も生育量の多かった 1 ヶ所は歩道改修によって生育場所がなくなることから移植されたが、数年後に消失した。歩道の改修・整備によって生育場所を失われやすい。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

立山。

生態・生息環境

晩夏から秋に赤みを帯びた無性芽を茎上部の葉腋につけ、胞子体は見つかっていない。県内では亜高山帯の半日陰、歩道の目地や階段の蹴込み、歩道脇の土や倒木上に生育する。

生存への脅威（減少の要因）

観光開発、歩道整備、自然遷移、踏みつけ。

保全対策

歩道整備時は生育環境の維持に配慮すること。

(文責：坂井 奈緒子)



撮影：坂井 奈緒子



2012年以降の記録をもとに作成

カワゴケ (カワゴケ科) *Fontinalis hypnoides* Hartm.

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 I 類
環境省 2020 カテゴリー：絶滅危惧 II 類

選定理由

県内の生育地は平地にある湧水の多い流れに限られ、水路改修や湧水量減少、徹底的な除草によって、最近 12 年間で生育範囲が約半分に減った。

国内の分布状況

北海道、本州。

県内の分布状況

射水市、高岡市。

生態・生息環境

夏でも冷たい水流、県内では湧水が年間を通して流れる水路の床面や側面に、長さ 30cm 程になる植物体が群落をつくる。

生存への脅威（減少の要因）

水路改修、水質汚濁、湧水減少、水草除去、帰化種の繁茂。

保全対策

水路改修時は生育環境の維持、水草除去時は本種を徹底的に除草しない配慮をすること。

(文責：坂井 奈緒子)



撮影：坂井 奈緒子



カラフトシノブゴケ (スマシノブゴケ科) *Echinophyllum sachalinense* (Lindb.) T.J.O'Brien

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 I 類
環境省 2020 カテゴリー：絶滅危惧 II 類

選定理由

県内の生育地は立山に 2ヶ所あり、1ヶ所の確認調査を行ったが見つけることができなかった。生育地は限られ、生育量は少ない。

国内の分布状況

北海道、本州。

県内の分布状況

立山。

生態・生息環境

亜高山帯樹林の木の根元、石に薄く堆積した土上などに生育する。

生存への脅威（減少の要因）

歩道整備、森林伐採を伴う観光開発、乾燥化、自然遷移。

保全対策

歩道整備時は生育環境を維持し、周辺の樹々の伐採は行わないこと。



(文責：坂井 奈緒子)

イトゴケ (ハイヒモゴケ科) *Neodicradiella pendula* (Sull.) W.R.Buck

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 I 類
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

生育地は低山に 3ヶ所あったが 1ヶ所は道路改修および着生していた木の伐採がされ、本種は姿を消した。河川や道路沿いの空中湿度の高い場所に生育しており、改修によって生育場所は失われやすい。暖地性の種で、日本海側の分布の北限は新潟県加茂市であり、富山県の生育地は北限に近い。

国内の分布状況

本州（茨城県以西）、四国、九州。

県内の分布状況

魚津市中部、小矢部市西部。

生態・生息環境

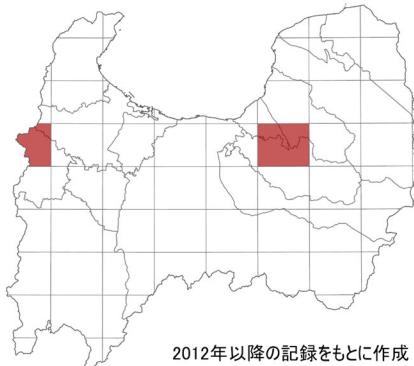
山間地の沢沿いや滝近くなど空中湿度の高い場所に生える木の幹や枝に着生し、長く垂れ下がる。

生存への脅威（減少の要因）

道路改修、河川改修、樹木伐採、乾燥化。

保全対策

生育地に沿って流れる河川や道路の改修、樹木伐採時は生育環境の維持に配慮すること。



(文責：坂井 奈緒子)

コウライイチイゴケ (ハイゴケ科) *Taxiphyllum alternans* (Cardot) Z.Iwats.

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 I 類
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

県内の生育地は 1938 年の 1ヶ所の記録のみあり、現在は市街地であるため、現存の可能性は極めて低い。記録以降、県内で見つかっておらず、生育は稀であると考えられる。

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

富山市北部。

生態・生息環境

湿地、泉の近くなどに生育する。

生存への脅威（減少の要因）

開発、自然遷移、乾燥化。

保全対策

生育地の保護。



(文責：坂井 奈緒子)

オオサンダゴケ (サンダゴケ科) *Plagiothecium neckeroideum* Schimp.

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 I 類
環境省 2020 カテゴリー：絶滅危惧 II 類

選定理由

県内の生育地は 1914 年、1938 年、1957 年の記録で新川郡旧太田村、旧月岡村、旧大沢野村、旧下中島村、黒部山、五色ヶ原があるが、開発により消失した場所が多いと考えられる。記録以降は見つかっておらず、生育は稀と考えられる。

国内の分布状況

北海道、本州、四国。

県内の分布状況

富山市北部・東部、黒部市南部。

生態・生息環境

高地に多く、岩や土上、樹木の基部に生える。

生存への脅威（減少の要因）

開発（森林伐採を伴うもの）。

保全対策

生育地の保護。



(文責：坂井 奈緒子)

レイシゴケ (ヒゲゴケ科) *Myurella sibirica* (Müll.Hal.) Reimers

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 I 類
環境省 2020 カテゴリー：絶滅危惧 II 類

選定理由

全国的に生育地は少なく、石灰岩に生育する種であり、石灰岩の採掘や乾燥化により減少している。県内には 1954 年の宇奈月町黒部峡谷～祖母谷の記録のみあり、現地調査では生育確認ができなかった。県内に石灰岩地は少なく、本種の生育は極めて稀と考えられる。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州。

県内の分布状況

黒部峡谷。

生態・生息環境

石灰岩の岩陰等に生育する。

生存への脅威（減少の要因）

観光開発、道路改修、法面整備、乾燥化。

保全対策

生育地は道沿いの岩と考えられ、法面を覆うコンクリート化を行わないこと。



(文責：坂井 奈緒子)

キレハコマチゴケ (コマチゴケ科) *Haplomitrium hookeri* (Lyell ex Sm.) Nees

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 I 類
環境省 2020 カテゴリー：絶滅危惧 I 類

選定理由

全国的に生育地は限られ、県内では 1970 年と 1971 年の立山弥陀ヶ原の記録のみで、近年は見つかってなく、生育は稀と考えられる。

国内の分布状況

本州（静岡・山梨・長野・富山県）。

県内の分布状況

立山。

生態・生息環境

高山域の地上に生え、群落をつくりず、他のコケ植物に混生し孤生することが多い。

生存への脅威（減少の要因）

観光開発、自然遷移、地球温暖化、産地局限。

保全対策

生育地は林床と考えられ、歩道を整備する際等には本種の生育の有無を調査し、生育する場合は生育環境の維持に配慮すること。



(文責：古木 達郎)

エゾヒメソロイゴケ (ミゾゴケ科) *Cryptocoleopsis imbricata* Amakawa

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 I 類
環境省 2020 カテゴリー：絶滅危惧 II 類

選定理由

日本固有種であり、全国的に生育地は限られる。県内では立山の生育地 1ヶ所が 1959 年と 1963 年に記録されているが、近年は見つかっていない。生育は稀と考えられる。

国内の分布状況

北海道、本州（東北、中部）。日本固有種。

県内の分布状況

立山。

生態・生息環境

高山域の湿岩上に生える。

生存への脅威（減少の要因）

観光開発、地球温暖化、乾燥化、産地局限。

保全対策

生育地の保護。



(文責：坂井 奈緒子)

サトミヨツデゴケ (サトミヨツデゴケ科) *Pseudolepicolea andoi* (R.M.Schust.) Inoue

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 I 類
環境省 2020 カテゴリー：絶滅危惧 I 類

選定理由

全国的に生育地は限られ、県内での生育地は黒部峡谷に限定されている。生育地は大雨によって土砂崩れが生じやすく、消失が心配される。また、歩道沿いにある生育地では、歩道や法面の整備によって消失するおそれがある。

国内の分布状況

本州（秋田・富山県）、九州（屋久島）。

県内の分布状況

黒部峡谷。

生態・生息環境

山地帯の峡谷の岩や倒木上に生える。

生存への脅威（減少の要因）

観光開発、歩道整備、法面整備、洪水、土砂崩れ、乾燥化、産地局限。

保全対策

歩道や法面の整備時は生育環境の維持に配慮すること。



(文責：坂井 奈緒子)



2012年以降の記録をもとに作成

サワクサリゴケ (クサリゴケ科) *Lejeunea aquatica* Horik. var. *aquatica*

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 I 類
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

県内の生育地は高岡市にある湧水の流れに 1 地点あったが、湧水量が減少すると姿を消した。他所で生育している可能性はあるが、生育に適する場所は、コンクリート製水路への改修や湧水量の減少で減っている。県内の生育地は日本海側の北限と思われる。

国内の分布状況

本州（茨城県以西）、四国、九州、琉球。

県内の分布状況

高岡市東部。

生態・生息環境

渓谷の岩上や流水中、県内では平地の湧水の流れに生育する。

生存への脅威（減少の要因）

河川改修、水質汚濁、湧水減少、水草除去。

保全対策

湧水が流れる水路改修時においては本種生育の有無を調べ、生育する場合は生育環境の維持に配慮し、水草除去時には本種を除草しないこと。



(文責：坂井 奈緒子)

イシヅチゴケ (イシヅチゴケ科) *Oedipodium griffithianum* (Dicks.) Schwägr.

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 II 類
環境省 2020 カテゴリー：絶滅危惧 II 類

選定理由

県内の生育地は高山帯に限られ、生育量は少ない。温暖化による乾燥化が進むと、その悪影響を受けやすい。

国内の分布状況

北海道、本州、四国。

県内の分布状況

立山連峰。

生態・生息環境

高山帯の岩、土上に生育する。

生存への脅威（減少の要因）

観光開発、歩道整備、地球温暖化、乾燥化、産地局限。

保全対策

生育地の保護。歩道整備時は生育環境の維持に配慮すること。



撮影：坂井 奈緒子

(文責：坂井 奈緒子)

キヌシッポゴケモドキ (キヌシッポゴケ科) *Brachydontium trichodes* (F.Weber) Milde

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 II 類
環境省 2020 カテゴリー：絶滅危惧 II 類

選定理由

県内の生育地は立山に数ヶ所あるが、大変微小な種で生育量は少なく、年にによって生育量の変動がある。歩道整備や洪水等によって生育基物の石や岩が損なわれやすい。

国内の分布状況

北海道、本州。

県内の分布状況

立山。

生態・生息環境

亜高山から高山帯の沢近くなどの半日陰の岩や石上に生育する。

生存への脅威（減少の要因）

観光開発、歩道整備、洪水、乾燥化。

保全対策

歩道整備時は生育環境の維持に配慮すること。



撮影：坂井 奈緒子

(文責：坂井 奈緒子)

コシノヤバネゴケ (カワゴケ科) *Dichelyma japonicum* Cardot

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 II 類
環境省 2020 カテゴリー：絶滅危惧 I 類

選定理由

全国的に生育地は少なく、日本固有種である。県内の生育地は限られており、生育量も少ない。

国内の分布状況

北海道、本州（中部以北）。日本固有種。

県内の分布状況

上市町中部。

生態・生息環境

多雪地域の山地に生育し、川、沢、池などの岸の木の幹や枝に着生し、植物体は垂れ下がる。

生存への脅威（減少の要因）

開発、自然遷移、乾燥化。

保全対策

池や岸部の美化や改変時には生育環境の維持に配慮すること。



撮影：坂井 奈緒子

(文責：坂井 奈緒子)

ヒヨクゴケ (イワダレゴケ科)

Hylocomiastrum umbratum (Hedw.) M.Fleisch. ex Broth.

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 II 類

環境省 2020 カテゴリー：準絶滅危惧

選定理由

県内の 2ヶ所の生育地は歩道沿いや植込みにあり、整備や改修の影響を受けやすい。

国内の分布状況

北海道、本州。

県内の分布状況

立山町東部。

生態・生息環境

山地帯から亜高山帯の腐植土上に生育する。

生存への脅威（減少の要因）

観光開発、乾燥化、道路改修、歩道整備。

保全対策

歩道等整備時には生育環境の維持に配慮すること。

(文責：坂井 奈緒子)

チヂレヤハズゴケ (チヂレヤハズゴケ科)

Moerckia blyttii (Mørch) Brockm.

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 II 類

環境省 2020 カテゴリー：絶滅危惧 II 類

選定理由

国内および県内の生育地は限られており、県内では立山に 3ヶ所あり、生育量は少ない。雪渓近くに生育するため、温暖化による乾燥化が進むと、その悪影響を受けやすい。

国内の分布状況

本州（山形・富山県）。

県内の分布状況

立山。

生態・生息環境

高山の雪渓の脇に生育する。

生存への脅威（減少の要因）

観光開発、地球温暖化、乾燥化、産地局限。

保全対策

生育地の保護。

(文責：坂井 奈緒子)

ヤマトヤハズゴケ (ヤマトヤハズゴケ科) *Sandeothallus japonicus* (Inoue) Crand.-Stotl. & Stotler

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 II 類
環境省 2020 カテゴリー：絶滅危惧 I 類

選定理由

国内および県内の生育地は限られ、日本固有種である。県内では立山の亜高山帯の湿った土上に生育し、温暖化による乾燥化が進むと、その悪影響を受けやすい。

国内の分布状況

本州（山形・秋田・富山県）。

県内の分布状況

立山。

生態・生息環境

亜高山帯以上の湿性草原や湿地の土手、湿った土上に生育する。

生存への脅威（減少の要因）

観光開発、歩道整備、地球温暖化、乾燥化、産地局限。

保全対策

生育地の保護。歩道沿いの生育地では、歩道整備時は生育環境の維持に配慮すること。



撮影：坂井 奈緒子

（文責：坂井 奈緒子）

ミツデモミジゴケ (アミバゴケ科)

Neoorthocaulis floerkei (F.Weber & D.Mohr) L.Söderstr., De Roo & Hedd.

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 II 類

環境省 2020 カテゴリー：絶滅危惧 II 類

選定理由

国内および県内の生育地は限られる。立山、五色ヶ原、三俣蓮華岳の生育報告が1967年にあり、立山での生育が2001年に確認された。しかし、2011年に立山では火山活動が活発化し、生育地は火山ガス濃度が高まったエリアにあり、その後の確認調査はできていない。

国内の分布状況

本州（富山・山梨・静岡県）。

県内の分布状況

立山。

生態・生息環境

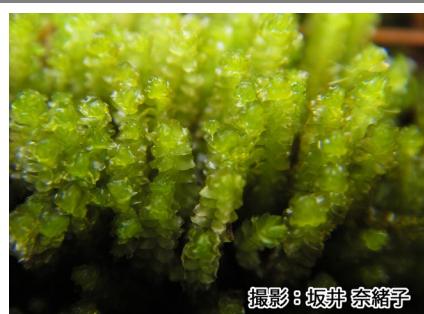
亜高山帯、高山帯の土上に生育する。

生存への脅威（減少の要因）

観光開発、地球温暖化、乾燥化、火山活動、産地局限。

保全対策

生育地の保護。



撮影：坂井 奈緒子

（文責：坂井 奈緒子）

シロヤバネゴケ (ヤバネゴケ科)

Fuscocephaloziopsis albescens (Hook.) Váňa & L.Söderstr.

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 II 類

環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

国内および県内の生育地は限られており、生育量は少ない。県内では立山に2ヶ所の生育地があるが、1ヶ所は生育確認できなくなった。温暖化による乾燥化が進むと、その悪影響を受けやすい。

国内の分布状況

北海道、本州（東北、中部）。

県内の分布状況

立山。

生態・生息環境

高山帯の湿った土上に生育する。

生存への脅威（減少の要因）

観光開発、地球温暖化、乾燥化、産地局限。

保全対策

生育地の保護。



撮影：坂井 奈緒子

（文責：古木 達郎）

ヤケミゾゴケ (ミゾゴケ科) *Gymnomitrion adustum* Nees

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧II類
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

全国的に生育地は限られており、県内の生育地は立山の高山帯にあり、国内の南限と思われる。温暖化による乾燥化が進むと、その悪影響を受けやすい。

国内の分布状況

北海道、本州（中部以北）。

県内の分布状況

立山。

生態・生息環境

高山帯の半日陰の岩や土上に生育する。

生存への脅威（減少の要因）

観光開発、地球温暖化、乾燥化、産地局限。

保全対策

生育地の保護。

（文責：古木 達郎）

シロウマミゾゴケ (ミゾゴケ科) *Gymnomitrion alpinum* (Gottsche ex Husn.) Schiffn.

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧II類
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

国内の生育地は限られており、県内の生育地は立山の1ヶ所である。沢近くに生育し、温暖化による乾燥化が進むと、その悪影響を受けやすい。

国内の分布状況

本州（中部）。

県内の分布状況

立山。

生態・生息環境

高山の沢近くの石上に生育する。

生存への脅威（減少の要因）

観光開発、地球温暖化、乾燥化、産地局限。

保全対策

生育地の保護。



撮影：坂井 奈緒子

（文責：古木 達郎）

アナナシツノゴケ (キノボリツノゴケ科) *Megaceros flagellaris* (Mitt.) Steph.

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧II類
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

県内の生育地は限られ、生育量は少ない。夏は猛暑による乾燥化が生じており、生育確認ができない年がある。

国内の分布状況

本州～琉球。

県内の分布状況

上市町中部。

生態・生息環境

溪谷の日陰、時に水没する石や岩上に生育する。

生存への脅威（減少の要因）

観光開発、河川改修、歩道整備、洪水、乾燥化。

保全対策

河川や歩道の改修・整備時は生育環境の維持に配慮すること。



撮影：坂井 奈緒子

（文責：坂井 奈緒子）

ガッサンクロゴケ (クロゴケ科) *Andreaea nivalis* Hook.

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：絶滅危惧 II 類

選定理由

国内および県内の生育地が限定している。県内では立山連峰の亜高山帯、高山帯に生育し、生育量は少なくないが、温暖化による乾燥化が進むと、その悪影響を受けやすい。

国内の分布状況

北海道、本州。

県内の分布状況

立山連峰。

生態・生息環境

亜高山から高山帯の半日陰、やや湿った石や岩上に生育する。

生存への脅威（減少の要因）

観光開発、歩道整備、踏みつけ、地球温暖化、乾燥化。

保全対策

生育地の保護。沢や歩道沿いの生育地では、改修・整備時は生育環境の維持に配慮すること。

撮影：坂井 奈緒子



(文責：坂井 奈緒子)

ヒカリゴケ (ヒカリゴケ科) *Schistostega pennata* (Hedw.) F.Weber & D.Mohr

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：準絶滅危惧

選定理由

生育地は限られ、観光開発や土砂崩れによる環境の変化が心配される。

国内の分布状況

北海道、本州（中部以北）。

県内の分布状況

黒部市中部、立山町東部、朝日町南部。

生態・生息環境

洞窟や岩の隙間などに生育する。

生存への脅威（減少の要因）

観光開発、歩道整備、土砂崩れ。

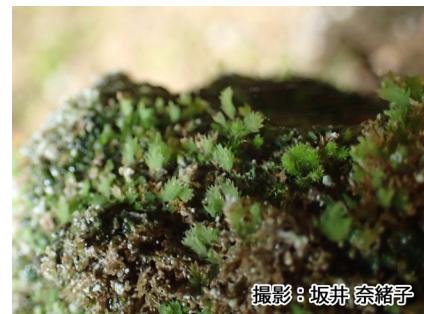
保全対策

生育地の保護。歩道整備時は生育環境の維持に配慮すること。

特記事項

中部山岳国立公園指定植物。

撮影：坂井 奈緒子



(文責：坂井 奈緒子)

イチョウウキゴケ (ウキゴケ科) *Ricciocarpos natans* (L.) Corda

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：準絶滅危惧

選定理由

かつては全国に広く普通に生育していたが、近年激減した。生育地である水田の耕作放棄、圃場整備、冬季の乾田化、薬剤散布によって生育はさらに減ると心配される。

国内の分布状況

北海道～琉球。

県内の分布状況

県内各地の水田。

生態・生息環境

水田や池の水面に浮遊し、水を抜いた水田の土上にも生育する。

生存への脅威（減少の要因）

圃場整備、水質汚濁、農薬散布、耕作放棄、冬季の乾田化。

保全対策

水田の耕作維持。冬季に水をはる田んぼの増加、農薬使用の減少が望ましい。

撮影：坂井 奈緒子



(文責：坂井 奈緒子)

ジョウレンホウオウゴケ (ホウオウゴケ科) *Fissidens geppii* M.Fleisch.

富山県 2025 カテゴリー：情報不足
環境省 2020 カテゴリー：絶滅危惧 II 類

選定理由

清流の濡れた岩や石上に生えるが、水質汚濁により減少している。県内には数ヶ所の記録があるが、類似する種と混同していると考えられ、精査が必要である。

国内の分布状況

本州、四国、九州。

県内の分布状況

上市町、立山町、魚津市。

生態・生息環境

平地から山間地の湿ったあるいは水際の岩や石上に生育する。

生存への脅威（減少の要因）

開発、水路改修、歩道整備、水質汚濁、森林伐採、乾燥化。

保全対策

生育地の保護。

(文責：坂井 奈緒子)

ヤスタゴケ (ハリガネゴケ科) *Anomobryum yasudae* Broth.

富山県 2025 カテゴリー：情報不足
環境省 2020 カテゴリー：準絶滅危惧

選定理由

県内の生育地は 1938 年の黒部山（地名不明）での記録のみである。現況の生育調査が必要である。

国内の分布状況

本州、四国。

県内の分布状況

黒部山（地名不明）。

生態・生息環境

飛沫水があたる、浸水するような湿った岩や土上に生育する。

生存への脅威（減少の要因）

開発、乾燥化。

保全対策

生育地の保護。

(文責：坂井 奈緒子)

コシノシンジゴケ (チヨウチンゴケ科) *Schizymenium sasaokae* (Broth.) Tad.Suzuki

富山県 2025 カテゴリー：情報不足
環境省 2020 カテゴリー：絶滅危惧 II 類

選定理由

全国的に生育地は少なく、県内では 1921 年の小黒部山の記録があるが、その地名は不明である。現況の生育調査が必要である。

国内の分布状況

本州。

県内の分布状況

小黒部山（地名不明）。

生態・生息環境

亜高山帯の岩上に生育する。

生存への脅威（減少の要因）

開発、森林伐採。

保全対策

生育地の保護。

(文責：坂井 奈緒子)

タチクモマゴケ (アミバゴケ科) *Anastrepta orcadensis* (Hook.) Schiffn.

富山県 2025 カテゴリー：情報不足
環境省 2020 カテゴリー：絶滅危惧 II 類

選定理由

国内の生育地は限られ、県内の生育地は 1966 年に記録された立山の 1 ヶ所のみである。現況の生育調査が必要である。

国内の分布状況

本州（関東、中部）。

県内の分布状況

立山。

生態・生息環境

亜高山帯以上の林床の土や岩、倒木上に生える。

生存への脅威（減少の要因）

観光開発、産地局限。

保全対策

生育地の保護。

(文責：坂井 奈緒子)

マルバイチョウゴケ (コヤバネゴケ科) *Obtusifolium obtusum* (Lindb.) S.W.Arnell

富山県 2025 カテゴリー：情報不足
環境省 2020 カテゴリー：情報不足

選定理由

国内の生育地は、県内から報告された 1967 年のワリモ岳 1 ヶ所の記録のみである。現況の生育調査が必要である。

国内の分布状況

本州（富山県のみ）。

県内の分布状況

ワリモ岳。

生態・生息環境

流れの近くの土や岩上に生育する。

生存への脅威（減少の要因）

地球温暖化、乾燥化、産地局限。

保全対策

生育地の保護。

(文責：坂井 奈緒子)

アカサキジロゴケ (ミヅゴケ科) *Gymnomitrion mucronulatum* (N.Kitag.) N.Kitag.

富山県 2025 カテゴリー：情報不足
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

国内の生育地は限られ、県内では 1959 年に立山連峰の高山帯の 1 地点で採取されている。現況の生育調査が必要である。

国内の分布状況

本州（富山・長野県）。

県内の分布状況

立山連峰。

生態・生息環境

高山帯の岩上に生育する。

生存への脅威（減少の要因）

地球温暖化、乾燥化、産地局限。

保全対策

生育地の保護。

(文責：古木 達郎)

ヒラウロコゴケ (ミヅゴケ科) *Nardia compressa* (Hook.) Gray

富山県 2025 カテゴリー：情報不足
環境省 2020 カテゴリー：絶滅危惧 II 類

選定理由

全国的に生育地は限られ、県内では 1963 年に記録された 1ヶ所のみである。現況の生育調査が必要である。

国内の分布状況

本州（秋田・山形・福島・富山県）。

県内の分布状況

黒部五郎岳（鷲羽岳の誤りの可能性がある）。

生態・生息環境

強い酸性の水中に生育する。

生存への脅威（減少の要因）

地球温暖化、乾燥化、産地局限。

保全対策

生育地の保護。

（文責：坂井 奈緒子）

キリシマゴケ (キリシマゴケ科) *Herbertus aduncus* (Dicks.) Gray

富山県 2025 カテゴリー：情報不足
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

県内では樺平から祖母谷で 1994 年に見つかっており、現況の生育調査が必要である。

国内の分布状況

北海道～琉球。

県内の分布状況

黒部峡谷。

生態・生息環境

山地の岩上や樹幹に生育する。

生存への脅威（減少の要因）

観光開発、歩道整備、法面整備。

保全対策

生育地の保護。

（文責：古木 達郎）

=参考・引用文献=

- 1) 秋山弘之, 1996. アジア産蘚苔類の分類・生態ノート, 6. 日本新産のヘチマゴケ属植物ツブツブヘチマゴケ. 植物分類・地理, 47 : 125–126.
- 2) 秋山弘之・山口富美夫, 2006. アジア産蘚苔類分類・生態ノート, 13. ツブルブヘチマゴケは九州・屋久島に隔離的に分布する. 蘚苔類研究, 9 : 115–116.
- 3) 秋山弘之・山口富美夫, 2008. 無性芽を有するヘチマゴケ属(ハリガネゴケ科, 蘚類)の研究 1. 日本産キヘチマゴケとその近縁種の再検討. 蘚苔類研究, 9 : 279–290.
- 4) Amakawa T., 1959. Family Jungermanniaceae of Japan. I. J. Hattori Bot. Lab., 21 : 248–291.
- 5) 安藤久次, 1962. 黒部峠に発見された *Pseudolepicola trollii*. 蘚苔地衣雑報, 2 : 171.
- 6) Hattori S. & Mizutani M., 1968. Asiatic species of Pseudolepicolea (Hepaticae). J. Hattori Bot. Lab., 31 : 251–259.
- 7) 本多啓七, 1963. 日本アルプスの水辺のミズゴケ類と苔類. 蘚苔地衣雑報, 3 : 40.
- 8) 井上 浩, 1960. *Takakia lepidozoides* の新産地. 蘚苔地衣雑報, 2(2) : 14–15.
- 9) Inoue H., 1971. *Haplomitrium hookeri* (Smith) Nees in Japan. J. Jpn. Bot., 46 : 353–357.
- 10) Inoue H., 1985. Studies on Pallaviciniaceae & Allisoniaceae (Metzgeriales) in Japan, 2. Bull. Natn. Sci. Mus., Tokyo, Ser. B, 11 : 1–10.
- 11) 岩月善之助(編), 2001. 日本の野生植物 コケ. 平凡社, 東京. 355 pp.
- 12) Iwatsuki Z., Hattori S., 1957. Studies on the epiphytic moss flora of Japan. 8 The bryophyte communities in the *Pinus pumila* association of central Japan. J. Hattori. Lab., 18 : 70–77.
- 13) Iwatsuki Z., Suzuki N., 2006. A taxonomic revision of *Trematodon asanoi* and its related species (Dicranaceae, Musci). J. Hattori Bot. Lab., 99 : 259–269.
- 14) 環境省, 2020. 環境省レッドリスト 2020 の公表について.
URL : <https://www.env.go.jp/press/107905.html>(2020年03月27日公表, 2025年1月30日確認).
- 15) 環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室(編), 2015. レッドデータブック 2014- 日本の絶滅のおそれのある野生生物 9 植物 II(蘚苔類・藻類・地衣類・菌類). (株)ぎょうせい, 東京. 580 pp.
- 16) 環境庁(編), 2000. 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物—レッドデータブック—9 植物 II(維管束植物以外).自然環境研究センター. 東京. 429 pp.
- 17) 片桐知之・古木達郎, 2018. 日本産タイ類・ツノゴケ類チェックリスト. Hattoria 9 : 53–102.
- 18) Kitagawa N., 1959. New or interesting species of Gymnomitrion (Hepaticae) in Japan. Acta Phytotax. Geobot, 18(2–3) : 33–38.
- 19) Kitagawa N., 1963. A revision of the family Marsupellaceae of Japan. J. Hattori Bot. Lab., 26 : 76–118.
- 20) Kitagawa N., 1966. A revision of the family Lophoziaaceae of Japan and its adjacent regions. II. J. Hattori Bot. Lab., 29 : 101–149.
- 21) Kitagawa N., 1967. Two species of Lophoziaaceae, new to Japan. Bull. Nara Univ. Educ. (Nat.), 15 : 37–43.
- 22) 桧崎浩亮・片桐知之(著) 増沢武弘(編), 2010. 北岳・間ノ岳の苔類. 南アルプス地形と生物. pp. 257–276. 静岡県. 静岡.
- 23) 水谷正美, 2007. Takakia のタイプ標本について. 三重コケの会ニュース, (25)(1–2) : 1–5.
- 24) Noguchi A., 1988. Illustrated moss flora of Japan. Part 2. pp.243–491. Hattori Bot. Lab. Nichinan.
- 25) Noguchi A., 1994. Illustrated moss flora of Japan. Part 5. pp.1013–1253. Hattori Bot. Lab. Nichinan.
- 26) 小笠原昇一, 1970. 立山で *Haplomitrium* の珍苔発見. 植物と自然, (4) : 11–12.

- 27) サイエンス ミュージアム ネット, 国立科学博物館及び兵庫県立人と自然の博物館の標本情報.
URL : <http://science-net.kahaku.go.jp/>(2024年11月1日にデータを取得).
- 28) 坂井奈緒子, 2007. 富山県上市町大岩千巖渓の蘚苔類. 富山市科学文化センター研究報告, (30) : 1-6.
- 29) 坂井奈緒子, 2010. 富山県内におけるクロカワゴケの分布の現状. 富山市科学博物館研究報告, (33) : 9-14.
- 30) 坂井奈緒子, 2011. 室堂平周辺の蘚苔類への訂正と追加. 富山市科学博物館研究報告, (34) : 135-136.
- 31) 坂井奈緒子, 2014. 富山県産蘚類チェックリスト. 富山市科学博物館研究報告, (38) : 15-44.
- 32) 坂井奈緒子, 2015. 富山県で再確認されたサトミヨツデゴケとナンジャモンジャゴケ. 蘚苔類研究, 11(4):123-125.
- 33) 坂井奈緒子, 2017. 立山弥陀ヶ原から天狗平のミズゴケ相. 蘚苔類研究, 11(9) : 260-264.
- 34) 坂井奈緒子, 2024. 富山県におけるイトゴケの記録. 富山市科学博物館研究報告, (48) : 57-58.
- 35) 坂井奈緒子・樋口正信, 2004. 笹岡久彦氏の報告と標本に基づく富山県の蘚類チェックリスト. 富山市科学文化センター研究報告, (27) : 87-112.
- 36) 坂井奈緒子・金子芳治・田村正次, 2022. 富山県におけるカワゴケの分布と生育地の変化. 富山市科学博物館研究報告, (46) : 1-7.
- 37) 坂井奈緒子・山田耕作, 2009. 富山県産のタイ類とツノゴケ類のチェックリスト. 三重コケの会ニュース, (26) : 21-36.
- 38) 笹岡久彦, 1910. 越中国産蘚類報告第一. 植物学雑誌, 24 : (197)-(198).
- 39) 笹岡久彦, 1914. 越中国産蘚類報告(其二). 植物学雑誌, 28 : (191).
- 40) 笹岡久彦, 1921. 最近発表若クハ所命ノ新蘚類. 植物学雑誌, 35 : (68)-(69).
- 41) 笹岡久彦, 1938a. 富山県産の蘚類. 富山教育, (292) : 64-79.
- 42) 笹岡久彦, 1938b. 富山県産の蘚類 其の三. 富山教育, (297) : 62-78.
- 43) Suzuki, T., 2016. A revised new catalog of the mosses of Japan. *Hattoria*, 7 : 9-223.
- 44) Suzuki T., Iwatsuki Z., Kiguchi H., 2006. *Brachydontium olympicum*, a moss misunderstood by Japanese bryologists. *J. Hattori Bot. Lab.*, 95 : 199-205.
- 45) 高木典雄, 1954. 日本産蘚類植物報告(7). 植物研究雑誌, 29(2) : 3-8.
- 46) 富山県生活環境部自然保護課(編), 2012. 富山県の絶滅のおそれのある野生生物一レッドデータブックとやま 2012—. 451 pp. 富山県生活環境部自然保護課, 富山.
- 47) Yamada K., Iwatsuki Z., 2006. Catalog of the hepaticas of Japan. *J. Hattori Bot. Lab.*, 99 : 1-106.
- 48) 山岡正尾, 1990. 光蘚との五十年.ヒカリゴケの旅グループ. 富山. 330 pp.